

# まほろば



## 病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第90号

2009年1月号

## 【コラム】新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年来、医療崩壊の危機が全国に広がると同時に、世界的な経済不況が押し寄せ、医療をとりまく環境はかつてないほど厳しいものとなっています。そんな中で、当院にとって喜ばしい出来事がいくつかありました。



6月中川英之呼吸器科部長が「がん治療認定医」に、太田宰子副看護師長が「がん化学療法看護師」に認定されました。7月には長年の努力が認められ、病院機能評価の認定を受けることができました。同じく7月に看護学校の新校舎が完成し、学生は真新しい教室で講義・実習に励んでおります。

また、11月の国立病院総合医学会のQC活動展示発表で栄養管理室チームが学会出席者の圧倒的な支持を得て優秀賞を獲得しました。

人事面では、5月に柿崎寛副院長、7月に三上勝也統括診療部長が就任し、指導力を発揮しております。平成22年2月には新病棟の竣工を予定しており、また工事が始まります。これまで以上に安全で安心できる医療をすすめ、一層きめ細かな患者サービスを目指す所存です。

さらに、全職員の力を結集して医療界に吹く逆風をはねのけ、病院の経営基盤をより安定したものにと願っております。なお、今月から血液内科を開設しましたが、これに伴い従来の内科を循環器内科（人見博康医長）に、消化器科を消化器・血液内科（吉谷元医長）に変更しました。呼吸器科はこれまでと変わりなく、一般内科は消化器・血液内科が担当しますので、よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、平成21年が皆様にとって良い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

院長 佐藤 年信

## 【クリスマスおゆうぎ会】風の子保育園



12月14日に保育園で、12月17日には病院の機能訓練棟で「クリスマスおゆうぎ会」を行いました。

園児23名は舞台狭しと、うた・げき・おゆうぎを演じ、父母、祖父母、入院されている患者さまからたくさんの拍手をいただきました。

白くまの衣装をつけての「いない・いない・ばあー」のかわいいポーズが決った初舞台の赤ちゃん組。しなやかな手や腰の動きでハワイのフラダンスショーに、飛び入りしそうなかわいいアロハ姿の2歳児。チェックのおそろいの半ズボン、スカート、ネクタイ姿で格好よい決めポーズで「学園天国」を踊ってくれた3歳児。また、今年大流行の「崖の上のポニョ」を歌って踊ると、会場から「ポニョ ポニョ♪」と、声が聞

こえてきました。

年中・年長児10名はすばらしい木琴演奏やげきてアイドルになりきつてノリノリで踊った「羞恥心」「ボリズム」のダンス、扇子を持った凛々い袴姿の黒田節。背に風のマークをつけてバチを持って「らっしょい・わっしょい」と掛け声をかけ、勇ましく踊ってくれました。

最後に子供たちは、入院されている患者さま、会場のみなさんに「ゆうきのうた」を手話付きで歌い、元気と勇気をプレゼントしました。

たくさんの患者さま、ご家族の方にお集まりいただき、ありがとうございました。

風の子保育園園長 謙訪 栄子



## 【クリスマスキャロリング】聖愛中学・高校

毎年の恒例行事となっている聖愛中学、高校の生徒さんによる「クリスマスキャロリング」。今年は12月16日に西1病棟（小児病棟）で、「きよしこの夜」「グロリア」「もうひとこぞりて」などの歌を披露していただきました。

キャロリングは同校の伝統行事で、毎年日本キリスト教団教会で行った後に、病院や福祉施設を慰問して

いるものです。当院には中学生と高校生42名と引率の先生2名が来院され、賛美歌の美しいハーモニーが院内に響き渡りました。

生徒の皆さん、ありがとうございました。



庶務班長 中野 喜代美

## 「市民講座：胃癌について」三上統括診療部長

今回の講座は、日本胃癌学会編「胃がん治療ガイドラインの解説（一般用）」に基づいて、医師以外の方にも理解しやすいことを心掛けを行いました。

まず、胃癌の進み具合（ステージ）はその胃壁に対する深さと胃以外への転移の状態で決まることを説明し、早期および進行癌の違いを理解してもらいました。

その後、その治療法については、早期癌に対して最近積極的に行われている内視鏡を用いた粘膜または粘



膜下層切除（外科医ですので少し批判的に）、外科における胃切除・全摘およびその再建法（100年以上前から変わらないのですが）を説明しました。

術後の生命予後についてはステージ別5年生存率曲線を用いて、早期胃癌以外は手術では治しきれない場合がまだ多いことをお伝えしました。

最後に当科での胃癌切除標本をいくつか示して、胃癌の具体的なイメージを持ってもらいました。

この講座が胃癌に対して正しい知識を知っていただき、早期発見の重要性を再認識していただくことが出来ましたなら、幸いです。統括診療部長 三上 勝也

## 「平成20年度栄養管理技能研修」を終えて。。

去る12月2日・3日に、北海道東北ブロック事務所主催「平成20年度栄養管理技能研修」を当院で開催されました。

この研修会の目的はNST（栄養サポートチーム）の活動内容を理解し、そのために必要な技術を習得することとされています。

研修場所を弘前病院（急性期NST施設）・釜石病院（慢性期NST施設）・北海道がんセンター（ガン専門施設）の三施設での開催となりました。当院には5施設（青森、八戸、花巻、釜石、山形）の管理栄養士が参加されました。

2日間の研修も院内の皆様の協力をいただき、NST回診・病棟での情報収集・ベッサイドでの身体計測・各講義等…無事終了することができました。



参加者の終了レポートには、①高橋看護部長の講義が心に響いた。②NSTシステムは非常に効率的である。③弘前NSTは各科の連携が絶妙！とそれぞれ記載されておりました。

当院でのNST研修参加者が『～患者さまを中心～』という理念のもとに各施設で活躍されることを期待しております。

今回の研修にあたり院内の様方のご協力に深く感謝いたします。

追記：当日は施設基準

立ち入り監査と重なり、身心共に誤作動と再起動の繰り返しで乗り切りました。

栄養管理室長 篠島 良介



## 【リーダー研修発表会】

11月27日（木）、リーダー研修発表会を大会議室で行いました。リーダー研修発表会は、リーダーシップや病棟を活性化するための取り組みを6月と7月にグループワークなどで研修を行い、その後に各自が課題に向けて取り組んできた状況や結果を発表しました。

今回は、病棟・中央手術室の8名が、母子に対する支援・看護学生の実習指導・環境・物品の管理・NST活動に関することなど、日常の看護実践場面を通して病棟スタッフに働きかけながら実践したことをポスターセッション形式で発表しました。



フロアーからの質問や意見が活発にだされ、日常の看護について考える良い機会になりました。

発表を行った8名は、リーダーシップをそれぞれ発揮している姿がうかがわれ、今後の活動が楽しみです。ポスターは、数日間掲示していますので、次回は是非、発表をご覧ください。

教育担当看護師長 福士 英子

## 「新生児蘇生法講習会」

「生まれたばかりの新生児からの最初の大事な情報は？」—「羊水中に胎便はあるか？呼吸は？筋緊張は？成熟児か？」です。

12月6日（土）青森県で初めての新生児蘇生法講習会が周産期医療連絡会主催で当院の地域研修センターで行われました。

冒頭の問い合わせに始まる講義グループに分かれ



3人のインストラクターによる実技指導。そして、その完成度を確認するためのシナリオによる実習です。新生児蘇生法は日本周産期・新生児学会が昨年からインストラクターの養成を始め、今年になってから各地で展開している学会の事業です。

今回はBコースで、産科医師、小児科医師、助産師、看護師、救急隊員の参加がありました。津軽地域の新生児医療に携わる者が確実にスキルアップするために蘇生法を身につけ、更に、その資格を取得できる講習会です。

蘇生が成功するために、最初の問い合わせから、初期処置（気道確保、膚皮を拭く、口から鼻への吸引、足底等

への刺激)。そしてアルゴリズムにそつて、処置を30秒間行い、評価(呼吸、脈拍、皮膚の色)を繰り返します。“あえぎ呼吸や無呼吸、心拍100／分未満、酸素投与でも中心性チアノーゼが消失しなければ、bagging!、そして心拍60／分未満なら胸骨圧迫も”という具合にそれを、確実に判断処置できることが要求されました。



インストラクターをはじめ、当院の小児科医師、母子医療センタースタッフ、当院事務職員、医学部学生と沢山の方々のご協力に感謝いたします。

小児科医長 野村 由美子

## 第62回国立病院総合医学会に参加して 「次世代型病棟建替えの夢」—有料個室増床への取り組み—

穏やかな晩秋の日、11月21日(金)東京の国際フォーラムで開催された第62回国立病院総合医学会に私と佐藤経営企画室長、神谷業務班長の3名が参加しました。主会場となった国際フォーラムは、現代を代表する巨大でモダンな建物であり、学会参加者の多さに困惑し、会場の熱気に汗をかき、ポスターセッションまでの時間をシンポジウムに耳を傾けたり、ポスターを見て回りました。当日のポスターセッションは59ブースに分けられ、各ブース毎に、座長の進行で3分



間の説明と2分間の質問が設けられていました。

いよいよ当院の「次世代型病棟建替えの夢」の発表です。パワーポイント10枚の説明はあつという間に終わりました。築40年以上の病棟が再生プラン(改善計画)と償還計画の命題に、有料個室増床(既存10床→83床)に着目し、収益性とサービスの充実で問題を解決、長年の病棟建替えの夢を叶えるというストーリーでした。発表後、懐かしい方々とお会いすることができ、楽しいひとときに会話が弾みました。

最後に、今回の学会に参加して、全国NHO施設の取組みを肌で感じ共感した内容を職場に還元したいと思いました。患者さまから選ばれ、信頼される弘前病院の新病棟(7階建)のイメージを思い浮かべながら帰路につきました・・・。企画課長 加藤 清

### 【シリーズ】臨床検査のABC②

### 血液型検査

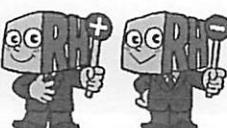
今回は、RhO(D)血液型検査について説明します。

Rh血液型には約50種の抗原がありますが、輸血で最大事なのはRhO(D)抗原で、赤血球上にRhO(D)抗原を持っている人はRh陽性、持っていない人はRh陰性となります。

日本人ではRhO(D)陰性者は0.5%ぐらいですが、白人では15%の人が陰性者となっています。

#### 血液型検査に用いる検体は?

昔は耳朶血などを検体として使用しておりましたが組織液が混入して判定に誤ることがあるので、現在は静脈血から採血した血液を使用しています。採血時に患者の取り違いがあるといけないので、患者さまの確



認をしてから採血を行っております。また、異なる機会に採血された検体で血液型を2回以上確認する(ダブルチェック)を当院の検査室は採用しております。

#### どんな検査法があるのでしょうか?

ABO血液型、RhO(D)血液型の検査に以下のような方法があります。

①試験管法: 試験管の中で凝集反応を観察する方法。

②スライド法: 抗血清と血球をのせガラス上で混ぜ凝集反応を観察する方法。

③カラム凝集法: 試験管の変わりに、ガラスピースまたはゲルを充填したカラムを用いて凝集反応を観察する方法。

当院では、スライド法とカラム凝集法の異なった方法で検査を行っております。臨床検査技師 橋 輝彦

## 【栄養管理室今年一年の抱負】

今年も栄養管理室では、「さらに!頭を使い、悩みましょう!」をモットーに、1年を乗り切っていきたいと思います。

昨年10月より、調理師が自主的に、調理の勉強会を実施しています。

1回目—いろいろな食材を用い、自由に献立を作成し、規定時間内で調理する。

2回目—「得意な和食」をテーマに、献立を作成し調理する。

3回目—「得意な洋食」をテーマに、献立を作成し調理する。

と計3回、調理実習を実施しました。すぐに患者様に食べていただける料理【創作料理・懐石料理・四川料理・カロリーオーバー?】ではありませんが、「これ



調理師勉強会

はこういう風にしたほうがよいのでは?」「具材はこのほうが生きるな!」等々いつも活発な意見が飛び交っております。これもひとえに、患者さまに少しでも“おいしく、喜んで頂ける食事”を提供したいという、強い気持ちの現れだと感じます。

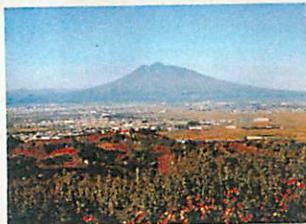
“あれも食べたい、こんなメニューはどうかしら”お褒めの言葉ばかりではなく、厳しいご意見もどしどしお寄せください。特別なメニューばかりではなく、普段のご飯・みそ汁にも手を抜くことなく、おいしく仕上げていきます。これからも現状に満足することなく、様々なことにチャレンジしていきます。

皆さま、この1年もどうぞ栄養管理室スタッフ一同のがんばりにご期待ください!!

主任栄養士 野呂 直子

## 【ふるさと紹介】「ふるさと…私のふるさとはやはり弘前…だった」

仙台に赴任中の8月3日の夜のことである。帰省の途中、サービスエリアで休憩していると、親友から電話があつた。「今、ねぶたが目の前を通っているの。太鼓の音聞かせてあげるね。大太鼓の音だよ。」と「ドンコドンコ・ドン・コドン、ドンコドンコ・ドン・コドン」そして遠くに笛の音が聞こえてきた。ジイと目をつぶり、電話を耳が潰れるくらい押し当てて



聴いた。とても懐かしく温かくそして、一刻も早く帰りたい思いにかられた。「懐かしさ」という今までにない感情がわいてきた。

朝な夕なに、岩木山を愛する津軽の景色や気配から離れて生活していたからだろうか。もともと、大好きな太鼓の音は腹の底から五臓に響き、「血が騒ぐ」といった躍動感というかエネルギーをもらえる音、という私の思いもあった。なによりも太鼓の音を聴かせてくれた親友の心遣いが心に滲み、一緒にねぶたを観ているような、そのような温い気持ちになつた。

看護部長 高橋 範子

## 【雪と光に包まれる弘前の冬

今年も12月1日(月)から、弘前城追手門広場周辺を中心に、「弘前エレクトリカルファンタジー」が始まりました。周辺の街路樹は、約13万個のイルミネーションの光に包まれ、その幻想的な風景は、真っ白に降り積もる雪と共に、心に深々と染み入ります。



市内に現存する文化財や洋館17施設もライトアップされ、弘前の冬は雪と光に包まれます。2月28日(土)までの開催期間中、教会でのゴスペル

## ～エレクトリカルファンタジー～

ライブ等のイベントも併せて行われます。

平成3年、りんご農家に大打撃をもたらした台風19号。地元を励まし、その被害から立ち直る元気を、と始まったこのイベントも18年目となりました。凛と澄んだ空気の中、ライトアップされた木々を見上げながら、冬の弘前の街を歩いてみませんか。きっと元気が湧いてきます。



入院係 工藤 真淑

## 【施設基準等の適時調査】

12月2日東北厚生局青森事務所による施設基準等の適時調査が行われました。東北厚生局青森事務所は、本年10月に地方社会保険事務局から保険医療機関等に対する指導監督等の業務移管により再編された組織です。

当院での調査は独法移行前の平成15年に行われて以来、5年ぶりの実施となりました。

内容は、届出している入院基本料等の各施設基準の実施状況について、適正に行われているかの調査



です。

当日は5名の調査官が来院され、組織・運営関係、入院基本料関係、入院食事療養及び入院時生活療養関係の書類調査、その後に現場確認が行われ、各担当職員が対応しました。

今後とも施設基準等の適正な運用をお願いいたします。

経営企画室長 佐藤 修一

## 【今月の川柳】

★【川柳募集】あなたの川柳をお待ちしています。

ジジババが 携帯見せ合い 孫自慢 (やすお)

※掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

## お知らせ

### ◆ 苦情・相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情・相談については、「患者相談室」のMSW(メディカルソーシャルワーカー)や、院内6か所に設置している「ご意見箱」で対応しています。

なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。